



**Data**

監督・脚本: リー・アイザック・チョン

出演: スティーヴン・ユアン/ハン・イェリ/アラン・キム/ネイル・ケイト・チョー/ユン・ヨジョン/ウィル・パットン/スコット・ヘイズ

## 👁️👁️ みどころ

“ミナリ” (MINARI) って一体ナニ? それは、日本では「春の七草」で有名なセリ (芹) のこと。韓国でも白菜キムチや鍋料理に不可欠な野菜だが、水辺に種をまけば勝手に育つとは何となく美味しい!

韓国に初のアカデミー作品賞をもたらしたポン・ジュノ監督の『パラサイト 半地下の家族』(19年) は、2つの家族の“格差”が大テーマだった。それに対して、今年のアカデミー賞主要6部門にノミネートされた本作は、米国に移住した家族が農園経営という夢の実現を目指すもの。リー・アイザック・チョン監督自身の体験を基にした、その奮闘は如何に?

心臓病の息子の扱いを巡る激しい夫婦喧嘩はいかにも韓国流。韓国からやってきた祖母のキャラも異色。購入した土地の前所有者は事業に失敗して自殺。そんな一家を次々と襲う試練とは・・・?

監督は、本作のタイトルをなぜ『ミナリ (MINARI)』としたの? それをじっくり考えながら、アカデミー賞最有力作を楽しく鑑賞したい。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■今年も韓国映画旋風が? 『ノマドランド』と頂上決戦! ■□■

2020年の第92回アカデミー賞では、ポン・ジュノ監督の『パラサイト 半地下の家族』(19年) (『シネマ46』14頁) が作品賞と監督賞を受賞したが、韓国映画がアカデミー賞の作品賞を受賞したのは同作がはじめて。近時の韓国映画のレベルの高さは折り紙付きだから、この結果には納得だが、今年のアカデミー賞でも韓国映画旋風が! それが、第93回アカデミー賞で作品賞、監督賞、主演男優賞、助演女優賞、脚本賞、作曲賞の6部門にノミネートされた、1978年生まれの韓国人監督リー・アイザック・チョンによる本作だ。

もともと、正確に言えば、本作は韓国映画ではなく『ムーンライト』(16年)や『レディ・バード』(17年)等、作家性の強い作品で映画ファンの心をつかみ、今やオスカーの常連となったスタジオA24と、『それでも夜が明ける』(13年)でアカデミー賞作品賞を含む3部門を獲得した、ブラッド・ピット率いるPLAN Bが制作した、“韓国系米国映画”だ。しかし、1980年代に米国南部のアーカンソー州に移住した韓国系移民の生きざまを描く本作のセリフの大半は韓国語。もともと、アメリカに移住し住んでいるのだから、ジェイコブ(スティーヴン・ユアン)とモニカ(ハン・イエリ)夫妻はもとより、長女のアン(ネイル・ケイト・チョー)も、末っ子のデビッド(アラン・キム)もそれなりに英語を操っている。しかし、私の感覚では、本作のセリフは99%が韓国語だから、本作の实质は韓国映画だ。

他方、そんな本作と第93回アカデミー賞の頂上決戦に挑むのは、米国在住の中国人女性監督クロエ・ジャオの『ノマドランド』(20年)。第78回ゴールデングローブ賞では、外国語映画賞を受賞した本作に対して、『ノマドランド』は作品賞と監督賞を受賞しているし、アカデミー賞では作品賞、監督賞、主演女優賞、脚色賞、撮影賞、編集賞の6部門にノミネートされているから、両者の勝負は見モノだ。去る3月29日、バイデン政権のブリケンケン国務長官とサリバング大統領補佐官は、日本に続いて韓国を訪問したが、更に続いてアラスカ州アンカレジでは、中国の楊潔篪(ヤン・ジェチー)共産党政治局員、王毅国務委員兼外相の2人と“対峙”した。そこでは、バイデン政権の対中国強硬政策が顕著になっている。しかし、アカデミー賞レースでは、本作と『ノマドランド』の頂上決戦に見られるように、米中韓の勢力が拮抗しているので、それに注目!

## ■□■土が良い!ここを農園に!韓国野菜を!そんな思惑は?■□■

2020年1月3日に投開票された米国の大統領選挙では、①激戦州の中で「最重要」と位置付けられた南部のフロリダ州、②「ラストベルト3州」とされた、五大湖周辺のウィスコンシン州、ミシガン州、ペンシルベニア州、③これまで「レッドステート」とされてきた南東部のジョージア州、南西部のアリゾナ州、南部のテキサス州、④選挙人は18人と多くはないが、有権者の構成が「アメリカの縮図」と言われるオハイオ州、という8つの激戦州が有名になった。南部のアーカンソー州はその中には入っていないが、第42代ビル・クリントン大統領の出身地として有名だ。

それはともかく、本作冒頭に家族の引っ越し風景が描かれるのは、去る3月23日に観た韓国映画『夏時間』(19年)と同じ。同作の引っ越し先は、祖父が1人で住んでいる郊外の立派な一戸建てだったが、本作におけるジェイコブたち4人家族の引っ越し先は、何と車輪付きの平屋だったから、ジェイコブから「家だよ」と言われたモニカは「約束が違うじゃない」と不満を爆発!ところが、ジェイコブは「土が良いからここに来たんだ」、「ここで大きな農園をつくり、韓国野菜を栽培する」と宣言し、上機嫌だ。細かい事情が分からない2人の子供も、車輪付き住宅の面白さと、だだっ広い農地に満足らしい。しかし、

心臓に病を抱えているデビッドのことを心配するモニカは、病院まで1時間以上かかるこんな僻地に住むことに大反対だ。周知の通り（？）、韓国夫婦の夫婦喧嘩は日本人夫婦とは違ってド派手だから、2人の子供はそれを涙ながらに聞いていたが、こんな状態でこの4人家族は新天地での生活をやっているの？

冒頭からそんな不安がいついばだが、ご近所との付き合いや教会通いが始まる中で、実はこの土地の前所有者は事業に失敗して自殺したという、いわくつきの土地だとわかったから、さらにモニカはおかんむり。ジェイコブは、一方ではモニカと共に「ヒヨコの鑑別」という、何ともつまらない仕事に従事しつつ、それ以外の時間はすべて畑仕事に費やしていたが、ここはホントに土が良く、農園に最適で韓国野菜をタプリー栽培できるの？

### ■□■なぜ妻の母を韓国から？祖母の異色キャラに注目！■□■

『夏時間』では、引っ越した3人家族に、認知症が進んでいる祖父と伯母さんを加えた5人家族の物語が進んでいった。それと同じように、本作でもジェイコブとモニカの相談（夫婦ゲンカ？）の結果、2人が今以上に働くためには、デビッドの世話をしてもらう手が必要だとして、韓国からモニカの母親・スンジャ（ユン・ヨジョン）をアメリカに招くことになる。

本作は、1970年代に韓国から米国に移住したチョン監督自身の幼少期の思い出を基に脚本が練られ、演出されたもの。したがって、天才子役のアラン・キムが演じるデビッドは監督自身の分身だし、ジェイコブ、モニカ夫婦はチョン監督の両親がモデルだ。さらに、“韓国で最も敬愛されている伝説の女優”ユン・ヨジョン演じる祖母スンジャを巡るエピソードも、監督自身のさまざまな思い出をもとに作られているから、本作ではその異色キャラと面白いエピソードの数々に注目！

面白いエピソードの第1は、スンジャとデビッドとの“相性”。三浦友和と山口百恵夫妻の“相性”が抜群に良いことは、俳優・三浦友和の半生を振り返った自伝的「人生論」である『相性』（11年）を読めば明らかだが、アメリカのテレビに出てくるような“優しいおばあちゃん”の登場を期待していたデビッドにとって、騒がしく毒舌、そして、料理もできず字も読めない祖母・スンジャにビックリ。このおばあちゃんの唯一の特技は花札で、子供たちに花札（博打）を教える始末だから、アレレ・・・。

第2のエピソードは、2人の対立が極限に達した時に発生した“小便事件”。デビッドはスンジャが飲んでいるコップの中の水を、いつの間にか自分のおしっこに差し替えたから、それを知らないままスンジャがこれを飲んだら・・・？こんな手口は子供のいたずらにしては度が過ぎているから、それを知ったジェイコブが烈火のごとく怒ったのは当然。しかし、そんな事態の中でこそ生きてきた祖母・スンジャの異色キャラとは？

第3のエピソードは、本作ラストのクライマックスに登場するもの。そのネタバレは厳禁だから、あなた自身の目でしっかりと！

## ■□■再三のド派手な夫婦ゲンカに注目！その論点は？■□■

韓国人の夫婦喧嘩の激しさは『パラサイト 半地下の家族』（19年）でもはっきりしていたが、本作でも、引越してきた当日をはじめとして、ド派手な夫婦喧嘩のシークエンスが何度も登場するので、それに注目！お互いの言い分をしっかりと観察し、論点を整理をした上で、どちらの主張が妥当かをしっかりと判断したい。心臓に病気を抱えるデビッドを巡って韓国からモニカの祖母を招くことについて、2人の意見が一致したのは幸い。しかし、ベテラン弁護士の私の目には、この土地での農園づくりの理想に燃え、奴隷のような“ひよこの鑑別作業”で人生を費やしてしまうことを断固拒否するジェイコブと、デビッドと家族を守ることに重点を置くモニカとは、今や根本的に相容れない立場になっていると言わざるを得ない。したがって、農園に引く地下水が涸れる危機の中で資金繰りに悩むモニカに対して、ジェイコブは「俺が責任を取る。失敗したら好きにしてくれ」と、最後の決意を披露したが、「家族が一緒にいることよりも事業の成功の方が大切な？」、どうしてもそう考えてしまうモニカが納得できないのは仕方がない。

他方、韓国人にキリスト教徒が多いことは周知のとおりだが、本作にはやっと教会通いを始めたジェイコブたち家族の前に、信心深い(?)ポール(ウィル・パットン)という何とも異色な隣人が登場し、ジェイコブの野菜栽培を手伝うことになるので、この男のキャラとそのストーリーに注目！最初はいかにも怪しげな雰囲気だったポールが意外に働き者で、農場におけるジェイコブの良きパートナーになったのは幸い。しかし、そんな2人で農業経営に努力した結果は？野菜栽培の成否・結果が土や水、そして天気によって左右されるのは当然だが、それ以上に、作ったものを販売し、投下資本を回収し、利益を得るのは大変。この土地の前所有者はそれに失敗したから自殺したようだが、さてジェイコブは・・・？

パール・バックの大河小説『大地』（31年）では、幾多の苦勞に耐えながら主人公は大富豪になったが、それは無条件かつ献身的な妻の協力があったからこそ。本作ではそれはどうも無理なようだから、さてジェイコブの“大農園計画”の成否は・・・？

## ■□■ミナリとは？なぜ本作のタイトルを『MINARI』に？■□■

あれほど相性の悪かったスンジャとデビッドの仲は、あの“小便事件”以降、急速に打ち解け合ったから不思議なものだ。ジェイコブもモニカも医者から言われたとおり、デビッドに対していつも「走ってはダメ」と注意していたが、外で働く両親に代わって子供たちの世話をすることになった(?)スンジャは平気でデビッドを外に連れ出し歩かせていた。その当否は疑問だが、韓国から粉トウガラシや煮干しを持ち込んだことで娘のモニカに喜んでもらったスンジャは、更に、さかんにデビッドを外に連れ出す中で韓国から持ち込んだミナリの種を川べりに植えたが、ミナリって一体ナニ？

『ミナリ』とは、「セリ」の韓国語。Wikipediaによると、セリ科の多年草であるセリ(芹)は、日本原産で、春の七草の一つだ。そして、「水田の畔道や湿地などに生え、野菜として栽培もされている。独特の強い香りと歯触りに特徴がある」とされている。韓国でミナリ

と呼ばれるそんなセリは、白菜キムチに入れたり、和え物にしたり、鍋に入れたり、韓国料理での活躍の場は実に幅広いそうだ。

本作中盤には、外で一生懸命に働く両親に代わって、留守番役を担っているスンジャが、再三デビッドを連れて川辺に行き、セリを植えるシークエンスが登場するが、ホントにこんな植え方でセリ（ミナリ）は育っていくの？また、何よりもリー・アイザック・チョン監督はなぜ本作のタイトルを『ミナリ』としたの？それをしっかり考えたい。

## ■□■監督のチョー辛かった体験がクライマックスに！■□■

映画撮影の現場で一番難しいのは、きっと火事の撮影。それは、本物のセットを燃やして火事の撮影をする以上、撮り直しはできないからだ。黒澤明監督の『蜘蛛巣城』（57年）における蜘蛛巣城の炎上ぶりと、その中で弓矢で射られる三船敏郎演じる武将の表情のリアルさは今なお語り草だ。それとは規模の大小が全然違うとはいえ、本作ラストに訪れる火事のシークエンスが本作のクライマックスになるので、それに注目！

ジェイコブもモニカも、“不治の病”とばかり思っていたデビッドの心臓病が、ある日の診察で快方に向かっていると知ってビックリ！それは一体なぜ？デビッド本人を含めて家族全員がこの吉報を喜んだのは当然だが、それとは逆に、ある日スンジャが倒れ込んだから、さあ大変。まさか、その原因があの日“小便事件”だったら“笑い話”で収まるどころだが、年相応、そしてタバコばかり吸っているスンジャの不摂生ぶりからすれば、かなりヤバイのでは？そう思っていたが、半身不随状態になりながらもスンジャは何とか命を取りとめたから、これもラッキー。しかし、今やスンジャの右腕は全く動かず、左手もかなり不自由だから、こんな状態でしっかり留守番役が務まるの？そう思っていると、2人の子供を連れて遠出した息子夫婦が用事を終えて自宅に帰ってくると・・・？

この評論を書いている3月30日には、札幌市中央卸売市場の隣にある場外市場で発生した火事で、激しく炎が吹き上がっている映像をテレビで何度も見たが、リー・アイザック・チョン監督自身のチョー辛かった体験だという、本作ラストで起きる収穫物小屋の火事のシークエンス（の迫力）は如何に？ジェイコブとポールが丹精込めて作った1年間の収穫物をすべて失ってしまえば、4人家族はもとより、自分のミスで火事を招いたと自責の念でいっぱいのスンジャも、おしまい・・・？

そう思えなくもないが、火事後、デビッドと共に水辺に赴いたジェイコブが、そこで目のあたりにした、大きく繁殖しているミナリを摘み取っていると、いつのまにかジェイコブの心の中には新たな希望が！なるほど、なるほど。これが“ミナリ効果”であり、リー・アイザック・チョン監督が本作のタイトルを『ミナリ』とした理由なの・・・？ そんなラストの静かな問いかけにあなたは納得するはずだ。『パラサイト 半地下の家族』は韓国内の2つの家族の物語から格差を鋭く問題提起したが、本作では、米国へ移住したジェイコブ一家から、しっかり“ミナリ”の意味を学びたい。

2021（令和3）年4月7日記